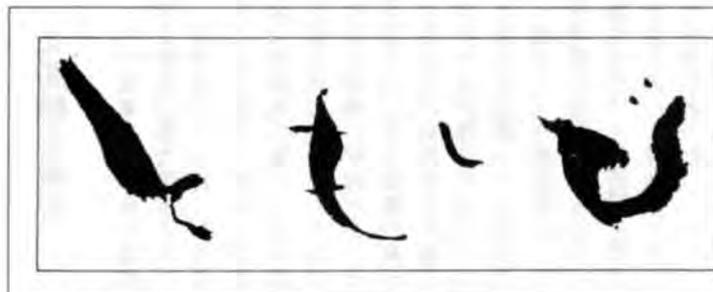


大学婦人協会東京支部

1992.7
第12号

- ・記念講演「これからの世界と日本の役割」
- ・各委員長に聞く

(前)大学婦人協会に入会していつの間やら十三年目を迎えました。私の所属しております東京支部は会員数六百名余り、全協会員の約三分の一を占める大所帯でございます。とは言え、この数は近年やや減少の兆しが見られ、会費収入を主な財源として企画・運営しております協会としても大きな問題となっております。今回、東京支部長の大役をお引き受けするに当り、私に何が出来るかを考えた時、現東京支部会員の定着と新入会員の増加に結びつく基盤づくりをと思いつきました。正確な会員数の把握、大所帯の為解りにくい会員の実態調査から始めたいと、活力溢れる支部委員の協力を得て手をつけ出したところでございます。

魅力ある

東京支部に

東京支部長 峯川正子



先ず正確な会員数の把握ですが、入退会は勿論、他支部への移動、住所・電話番号の変更は会員の方から自主的に早くお届け下さるようお願い致します。一番困りますのは会費不払いによるなし崩し退会で、これは会全体にも迷惑をかけることになりましてぜひ葉書にでも退会届を書いてお送りください。その際どなたかお知り合いの方を新会員としてご紹介頂ければ尚有難く存じます。皆様の中には先輩に誘われて入会したもののどの行事に参加してよいやら、どんな活動をしている会やら良く判らず、何のメリットもないとお考えの方もいらっしゃるでしょう。本部主催では例年、セミナー・新春のつどい・通常総会(会場は地方支部持ち回り)があり、又本部委員会主催の講演会・留学生の報告会・バスツアー・他団体との交流・奨学バスツアー・他団体との交流・奨学生への奨学金贈呈式等があります。東京支部主催では、講演会・講座・見学会の他、常設のサークルも現在四つ程あり、これらの催しは本部支部共皆様の参加を期待して計画・実行されています。又この催しに出席された会員の方々の間に交流が生まれ、それが次の企画へと繋がって行くというところで、様々の経歴をお持ち

ちの素晴らしい会員の方々と交流がこの会の会員としての大きなメリットと言えるのではないのでしょうか。セミナーの研究発表にしても本来は支部会員の中からの呼び掛けや盛り上がりによってするのが一番と考えますし、それにはなるべく常設のサークルを増やして平素の会員同志の交流を図り、本部等の催しにも参加しやすいように努めたいと存じます。もともと支部会報「ともしび」も数年前東京支部が行いましたアンケートの調査結果から生まれました。会員同志の交流に、会員の声の広場にと願っての企画でしたが、会員からの反応は今一つのように思われま

す。今回は本部理事会にもご協力願ひ、各委員会の内容・方針・PR等お寄せ頂きました。関心のある委員会をお知らせ下されば、催しについて直接委員会から通知が参ります。今回のアンケートに対する皆様のご回答は今後の東京支部の企画・運営に、ひいては協会の在り方の指針に役立つことと存じます。魅力ある東京支部に少しでも近づきますよう、支部の基盤づくりがはやく軌道に乗りますよう会員の皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

支部総会報告

'91年度東京支部総会は四月二十日国立教育会館で開催された。

出席者六十九名、委任状三百二十四で会は成立。初めに支部長より東京支部担当の第三十五回通常総会を支部会員の協力のおかげで無事終えた事に感謝の挨拶があった。また、支部長の二年の責務が終わり委員も半数以上の交替があり新しい顔ぶれで新年度が発足することに対し理解と協力をお願いする旨話された。

議事に入り事業報告、決算報告等各議題が審議され承認された。新支部長峯川さんの挨拶と新委員の紹介。会長も新しく青木怜子さんが就任され挨拶があった。

記念講演は「これからの世界と日本の役割」と題し慶応義塾大学教授島田晴雄先生。世界を騒がせた日本がらみの事件を追いながら日米経済摩擦の底にある問題等話され、アジアからの留学生への理解を家庭をあずかる女性からせむと熱望され、話を結ばれた。毎日の新聞記事から何を読み取るか、私達の身近にも世界へつながらぬ問題が沢山ある事を考えさせられる講演だった。(吉田)

記念講演

「これからの世界と日本の役割」

慶応義塾大学経済学部教授

島田晴雄氏

労働経済学が専門で、更に日本経済・国際経営・国際関係論など幅広く活躍の氏は、米仏の大学の客員教授を歴任、OECDやILOのアドヴァイザー等、我が国有数の知米派、かつ国際派エコノミストと伺っていたが固い難いお話を聞く以外に柔らかな語り口で、世界中から今日日本は顔が見えない国だとか、意志が見えないと言われていることに対し、具体的且つ解り易く比喩を使ったりして話された。年老いた父

(米田)は俺が育ててやったと思ひ、因体の大きくなった息子(日本)は昔の事ばかり言う親をうるさいと思う。その為にパブリックな、米田に対する不用意な発言・失言が飛び出す。これは日本人の心の片隅に思ひ上がりがあるし、そこから更に嫌米・厭米へといった雰囲気繋がったのでは?と指摘された。全世界二百ヶ国中で、日米両国合わせGNPの約四〇%を占めている今、日米関係は即世界の軌軸関係。両国が協力し世界の中核となるべき時で、不満ばかり

り言わず、考え方の上で米田から独立する事が日本の最重要課題である。自分の足で立ち、この混沌たる世界を見た時、どうするかということ自身に問うてみたことがあるのか。米田の言い分が失礼と思うのなら自分で責任をもって発言したらどうか。子が独立し世界の重荷を父と一緒にガツチリ背負ってゆく心構えが出来れば、父と子はお互いの立場を理解し合い労わり合える。この関係を築こうと努力しないのは、我々の中に一番問題となる甘えが存在し、それが日本の態度の曖昧さの総ての原因となっている。

湾岸戦争でも日本は最大の負担一三〇億ドルをも出しながら誰からも感謝されていない。ガット、PKO、日韓関係も同様。一九六〇年日韓平和条約を結んだのに日本の基本的立場把握の認識不足から、条約締結が無意味となる様な事態が起こる等、正に日本人の精神的未熟故の弊害で、大いに反省し、世界に日本というものをハッキリと理解してもらえようように努力するのが急務である。又将来日本が取り組むべき課題は、一、世界の貧困問題、二、世界の安全保障問題、三、世界の人口問題、四、世界の環境問題とされ、どれも

世界的大問題で、一国では支えきれぬ事ばかりであるが、今日日本が経済大国として正面からどう取り組んでゆくのか、その覚悟があるのかと世界から問われることは必定。日米共同の敵ソ連が消滅した今日、日米が向い合い、お互いの欠点が見えて来て悪感情を持ち易いが、この時こそ本当の友人になる時であり又友人であり続けねばならない。意見の違う友人同士との共存には、共に精神的に大人であることが要求され自身の思考の確立が必要となる。今まさに福沢諭吉先生の独立自尊の精神が求められる事、今後の世界の変化に対する日本の役割、独立と責任について熱く語られ、最後に私共への二つの提案をされ、話を結ばれた。

一、外国人(特にアジア人)をホームステイさせてほしい。(一)家庭に招待するだけでもいいから
二、外国人に日本語を教えてほしい。(野崎方子)

○国際社会と共存するために

「責任ある平和主義を考える」

島田晴雄・岡本行夫

井尻千男・木村昌人(編著)

PHP研究所・一八〇〇円

'91全国総会を終えて

齋藤智恵

東京に於ける通常総会開催は十数年ぶり、当時新任の金子支部長を迎え、まず会場探しから始めたのは二年前のこと。土地柄公共施設、ホテル等数こそ多いが申込時期の制約、立地条件、見積額、又四月初めの週末故の難しさ等々、検討の末好意的申し出のあった全日空ホテルに決定。できる限り広い会場を、しかも安くお食事も美味しくと頑張った私共の要望に合わせ、食費の他は削りに削り、割引迄お願いしてホテル側担当者を悩ませながら準備を進めた。

観光、四月は繁忙期とてバスが使えず、見学も日曜の為できない所が多く、結局サントリーホールと国立劇場に落ち着いた。又お土産は二転三転の後、セミナーの趣旨に沿って、環境に優しい「和布」お湯だけで油汚れが落とせるクズ綿を紡いだ布」と、当協会草創期を取り上げた「ともしび」特集号に決まり、年明け早々に案内・申込書発送に漕ぎつけた。今春は三月から雨天続き、加えて申込の出足の遅さにハラハラしたが、幸い二百四名に達し、漸々晴天に恵まれた四月三日、十二時より評議員

会、次いで支部長会が行われた。

懇親会は六時、参加百四十三名。

お二人の海外からの留学生を乗賓に、大森副支部長のユーモア溢れる司会によって、広々と天井も高い鳳の間に響くヴァイオリンとフルートのミニコンサートを皮切りに宴は始まった。幸いお料理の評判もよく和気藹々の歓談のひとときの後、少々練習不足ながら支部有志が合唱、次いで全員で「花」を歌いお開きとなる。

四日九時から総会、山崎みね副会長司会で議事進行、案じた記念撮影も無事終わって昼食。午後青木新会長より三年後に迫ったIFUW第二十五回総会に向けて準備の進捗状況説明と会員への協力要請もあって四時定刻通り終了。

七時より百三名参加のサントリーホールに於けるユー・アイ・メ・ニューイン指揮新日本フィルコンサート。曲目はブラームスの交響曲第四番他。かつては切れ鋭い超絶技巧の名手メ・ニューインが、今は白髪のお好々爺の風貌に変わり、孫のようなハープの吉野直子との共演は微笑ましかった。五日折あしく冷たい雨、国立劇場の開場より一時間も前からお待ちの方もあり恐縮した。参加は八十三名。テレビでも放映されたが改装後初公

演は「盟三五大切」。鶴屋南北らしい伏線の多い複雑な筋立、面白さはあるものの記念公演らしい華やかさに乏しい感が残った。

支部委員は故障者続出ながら、総会準備、又バザー等による資金集めに総力を挙げて努力、参加者より満足の声をいただいたことはこの上ない喜びとなった。それにしても不親切日以降の申込、変更、取消の多かつたこと、お金絡むだけに会計の方のご苦労が大変で、何とかならないものかと痛感した。

最後に皆様のご協力により、この度の総会を無事終えることができましたことを感謝申し上げます。



行事のお知らせ

- 6月27日(土) マーガ・グレッグさんを囲む会
- 7月1日(休) (国外奨学委員会共催) ともしび 12号発行
- 7月初旬 寺崎マリコ氏との座談会
- 7月23日(休) 新日鉄津製鉄所見学
- 9月26日(土) JAUWセミナー (本部主催)
- 27日(日) テーマ「環境教育——理念と実践」(於国立婦人教育会館)
- 1月16日(土) 国内奨学金贈呈式 (共催)
- 1月23日(土) 新春のつどい(本部)
- ・サークル紹介
- 読書会 毎月第二火曜日
- 俳句会 毎月第一月曜日
- 初級英語講読会 毎週金曜日
- 古典講座(平家物語) 月二回 尚新しいサークルを募集中です。
- ・セミナーサブテーマについて
- 一、地域環境問題と国際社会
- 二、家庭 三、学校 四、職場
- 五、地域

委員長に聞く

総ての会員にチャンスを一！

国外奨学委員長 宮島茂子

JAUWは多くの会員の献身的な働きに支えられて、その対社会的な面目を保ち、各方面に対する働きかけをしてきました。惜しいことに、各委員会の委員以外のメンバーはその恩恵に預かる機会が少なく、総会やセミナーに積極的に参加する以外、親睦の意味を持つ新年会や行事に参加するだけでは、JAUW本来の活動に貢献しているという実感が持てません。これでは新しく入ってくる人々をひきつける魅力はなく、若い会員を増やすこともできません。

どうしたらよいか。第一案としては、各委員会にサポートグループを作り、その委員会の仕事をサポートし、それを通してJAUWの本来の目的である活動を理解し、自己表現の機会を持つようにしたらどうでしょうか。会員は一つでも、二つでも自分の関心のある委員会のサポートグループに入り、委員長からの電話連絡網で、それに関する講演会や勉強会に参加することができ、

第二案は会員の中の各方面の専門

家を活用して、その人を中心に勉強会を持つこと。例えば、実地的なワ

プロの勉強、英語の手紙の書き方、国際会議の運営方法等です。とにかく総ての会員に臨在感を持たせられるJAUWにしたいものです。

* 国外奨学 JAUW 国外奨学生の募集関係業務・来日中の奨学生の世話・IFUW 関連の奨学金の紹介

国内奨学委員長 佐藤宏子

当委員会は国内奨学生及びホームズ奨学生の募集に関する業務を行います。本年度も一般奨学生（学部生八名・大学院生九名）社会福祉奨学生（五名）安井医学奨学生（一名）を募集します。ホームズ奨学金の順番は東京女子大で、学長宛に推薦を依頼しました。奨学金の応募締切は十月八日。募集要項は、東京・千葉・埼玉の五十七大学の各学長宛、他の地域は各支部長宛に六月八日に発送し、推薦を依頼しました。

奨学金の贈呈式は来年一月十六日（土）の午後、会場はホテル・ストラータ新宿。東京支部と国内奨学、社会福祉両委員会の共催で行います。式後、奨学生と会員との交流を願い、お茶の会を致しますので、支部の皆様、ふるってご参加くださいませ。

財務委員長 熊切富子

四月から財務の任に就きました。かつて一委員として末席におりましたが、いざ、金庫を預かってみないと、その財源は非常に乏しい所帯であるというのが実感でございます。結局預かりましたからには、運営できる位の財源をつくり、火の車の台所を満たし、この歴史ある団体が、少しでも活躍できる様にと、思っております。歴代の財務委員長の方々が、如何にご苦労なされたかは想像するに余りあります。

現在大変な努力のもとに、委員達は明るく、積極的に、又楽しんで分担された仕事をこなしております。各方面から寄付を戴き、また年二回のバス旅行・見学会、年六回の観劇会、又親睦を兼ねた新春の集い、更に行事毎のバザー開催など、資金を集めるのは至難事で、使う事は容易な事でございます。皆様お一人が、一人の入会の方を、お誘い下さいませ。又一つの方法でございませ。何卒、皆様には、ご理解、ご協力下さいませ。切に希望致します。

バザー用品のご寄付を！

事務

所宛にお送り下さいませ。

国際第一委員長 房野 桂

委員会規定によると、この委員会には、IFUW並びにその加盟団体との連絡が主な業務です。

最近、円高の為、外国からのお客様はめっきり減ったとの事。今、非公式に、フィンランドから一人、京都に美術、禅美学の研究に来ておられ、京都支部で歓待下さる予定です。現在委員は十四名、当番月をきめてお客様の応対に努めています。

IFUW本部や他国の大学婦人協会や連盟からのお手紙は必要なものは和訳して皆様にお知らせ致します。最近のIFUWNEWSによると、一九二〇年代創立のバルト三国の大学婦人協会は、一九四〇年の旧ソ連邦への合併で解散を余儀なくされましたが、ソ連邦の解体後、活発な再編成の動きがあり、スタンフォードの総会での再加盟が期待されているそうです。又、国の再建にその知識や技術を何とか役立てようと熱心な活動を始めているとの事です。

国際第二委員長 野瀬久美子

国内の関係団体との交流や協力を通してJAUWの社会参加をすすめるというのが当委員会の目的です。

現在交流している団体の中、①国際婦人年連絡会には五十の団体が加盟しており、全体会の他、六つの小委員会（政策決定参加、教育・マスメディア、家族・福祉、労働、平和と国際協力、ユニフェム）に分かれて、例えば育児休業法や子どもの権利条約について、勉強会や関係省庁へのヒヤリングや要請を行ってきた。②七婦人団体議会活動連絡委員会は、女性の参政権の正しい行使や政治改革を目指して月例会や研究会を開いており③国連NGO国内婦人委員会は、国連への協力や各種人権条約の批准促進の働きかけ、国連総会への民間女性代表の推薦を行い④国際人権規約安全実施促進連絡会議は、人権関係条約の早期批准の要請等を行い⑤地球環境と女性連絡会にも、新しく加盟いたしました。

委員は分担してこれらの会に参加し、他団体との協力を進める一方、実際の社会や法律、条約等についての良い勉強の機会となっています。会員の皆様も、是非ご参加下さいませよう委員一同お待ちしております。

本年度教育委員会をお預かりしました大八木でございます。全国セ

ナーのテーマが「環境教育―理念と実践―」と決まりましたので、一般的に実現しやすく効果の上がるものをサブテーマの項目の中から拾い出して目標としたいと思います。教育委員会の主テーマの項目は「大学に於ける環境教育への取り組み」となっておりますが、皆様には家庭及び地域に於ける環境問題への認識と学習とに目標を置き、家庭生活に於ける環境問題の捉え方、なかでも子供が学校と家庭に於いて、環境についていかに教育され理解していくかというところをつきつめ、そこから地球にやさしい暮らしを生み出していくようにして頂きたいと思っております。これは職場に於ける環境問題にも関連しますが、それらを通じてゴミ処理・資源のリサイクル・河川、大気、水の汚染防止・緑地の確保・省エネルギーなどの細目を考えて頂きたい、この点につき、いかに活動していくか、東京支部の皆様のご賛同とご活躍とを心より期待致しております。

婦人の地位委員長 杉森長子

婦人の地位委員会はただ今秋の全国セミナーに向けて準備中です。

今年のテーマは「大学における環境教育への取り組み」としました。

現在どのようなカリキュラムのもとに環境教育がなされているか、受講生は何人か、女子学生は何人いるか等、まず教育の現状調査を行い、次いで、大学卒業後の女子受講生が環境問題分野の仕事にどのくらい携わっているか等を調査する予定です。大学教育においては、とかく女子学生が文系に多く、理工系に少ないことが問題とされてきました。環境問題の解決についても、女性の科学者や高等行政官の貢献が予測されますが、環境問題に取り組んでいる研究者や行政官あるいは教育者など専門家はどれくらいいるのでしょうか。大学における環境教育の充実は環境問題解決に資するばかりでなく、女性の活動領域を拡大し、地位の向上に役立つと言えましょう。

社会福祉委員長 福原真知子

本年度より当委員会のお世話を引き受けさせていただきますことになりました。よろしくご協力のほどをお願いします。

本年度より当委員会のお世話を引き受けさせていただきますことになりました。よろしくご協力のほどをお願いします。

い申し上げます。

- 当該委員会の仕事は規定によれば
- ①社会福祉奨学生の募集・選考・奨学金贈呈に関する一連の業務
 - ②社会福祉に関する調査・研究
 - ③セミナーへの参加、協力です。

このうち奨学生の募集については国内奨学委員会で用意された依頼書に連名し、六月初旬発送の運びとなっております。宛先は東京地区の大学学長と支部長各氏です。該当者五名は十月から十一月に決定され、一月に贈呈式がもたれます。調査・研究は当委員会独自に行うものです。ちなみに前期委員会（一九九一年度）は、「障害をもつ大学卒業生の生活環境の調査（就職と職業生活）」をまとめ関係各所に配布された由。

「実際と結びつくもの」を、という基本姿勢をふまえて発展的に、役立ち得る。研究を計画したいと思っております。本年度セミナーは「環境教育―理念と実践―」、当委員会にとっても関係深いテーマに決まりました。出来る限り協力し勉強させていただきます。どうぞと考えております。

会員委員長 吉武勇子

会員委員会の仕事は「会員の現状把握」に尽きます。常に会員につ

ての正確なデータを把握し、要望に
応じて提供できるようにするには、
きめ細かな作業が要求されます。

入会、住所変更、退会など、あら
ゆる届出を受け付けてくださる事務
職員と緊密な連絡を取りながら、会
員カードとパソコンに入力してある
データの修正を行います。

会員のデータ管理をパソコンで行
うことは数年前からの懸案で、当時
の委員が大変な時間と労力をかけら
れましたが、実際の運用に関しては
費用のかかる外注に頼らざるをえず、
十分に活用されないまま時が経過し
ました。幸い昨年度、コンサルタン
トのご指導により、以前のデータを
そのまま引継いで管理することが可
能になり、全会員のデータ入力を完
了し、今後は変更事項と会費納入状
況の入力を逐次行えばよいところま
で整備されました。

この地味ながら大切な仕事をお手
伝いくださる方はいらっしやいませ
んか。ワープロ、パソコンに興味の
ある方、大歓迎です！委員会は毎月
第二木曜日午後一時～三時半です。



新委員のことば

お優しい先輩の皆様のお教えを戴
きながら、ベストを尽くしたいと思
っております。有沢 公(東 女)

新支部長のもと、講座及び見学の
企画係の一員に加えて頂きました。

有能な諸姉の中、学ぶこと一杯と乗
しみにしております。皆様のご提案、
ご希望をお待ちしております。

小宮 礼子(津 田)

先輩のお誘いで入会させて頂きま
した。皆様に教えて頂きながら精一
杯頑張りたいと思っています。

佐藤 睦子(東 女)

気がつけば井の中の山椒魚五十代、
先輩の呼ぶ声に、おそろおそろ這い
出して、まぶしい世界をきよろきよ
ろしています。どうぞよろしく。

坂上 栄美子(天 女)

平凡な主婦業にて知力は衰えまし
たが、元々無かった？体力は大丈
夫。趣味は俳句。どうぞよろしく。

柴崎 富子(津 田)

立派な方々の中で、私はどこまで
お役に立てるかとお心配しながらの
出。何卒よろしくお願い致します。

鈴木 光子(日 女)

帆船に乗り組んで、内海から外洋
に出たような気が致します。下船す
る迄先輩の皆様のご指導を頂きなが

ら、委員を努めさせて頂きます。

関口 瑞穂(実 踐)

「ともしび」編集の行きがかり上、
又々六年ぶりの委員会。新鮮味に欠
ける出もどりで。どうぞよろしく。

津森 都留子(東 女)

和やかで輝ける皆様との交流の中
で、協会の活動を通じ、微力ながら
も努めて参りたいと思います。

比留間 淑乃(日 女)

魅力あふれる先輩委員のもとで、
学びの機会を与えていただき、感謝
いたしております。

藤枝 史子(茶 大)

知的で有能な先輩方に囲まれて、
0から教えて頂くという気持ちで、
東京支部の一員として活動するつも
りです。

藤谷 文子(実 踐)

まだ、何もわからないままに支部
の委員のお仲間に入れて頂きました。
皆様よろしくお願ひ申し上げます。

松沢 美仁子(津 田)

先輩の勧めで、初めて参加させて
いただきます。皆様の「有意義なお
遊び」のお役に立てればと願ひます。

溝淵 ひろ子(聖 心)

なにもお役にたためず、三回目
の委員を引き受けさせていただきました。
よろしくお願ひいたします。

山村 敬子(日 女)

○「小倉百人一首をうたう」

前支部委員・伊能美智子氏作曲・
東敦子氏独唱による演奏会が、六月
二十一日津田ホールで行われた。

○初夏の秩父へバスツアー
財務委員会

・加藤近代美術館―近代アメリカの
巨匠A・ワイエス、および日本
画壇の近代の作品を展示

・火祭りで有名な秩父神社、祭会館

・秩父札所の金昌寺、音楽寺

日 時 平成四年七月二日(木)

午前八時二十分

集合場所 新宿駅西口安田生命前

費用 八五〇〇円

編集後記



新支部長を迎え気分も一新したと
ころで本誌も、その誕生からチーフ
としてお世話下さった若井様に代わ
って、阿南・平田・関口・藤谷・津
森の五人が協力して編集、校正の強
い助っ人として羽山・井上・橋本の
諸姉が加わって下さることになりま
した。今回はやっとならわった東京総
会の特集号に続き本部委員会をフォ

ーカス、やや硬い誌面となりました
が、追々皆様のご意見を反映させ、
ご期待にそいたいと思ひます。(T)

ともしび 十二号 発行日 一九九二年七月一日

発行 大学婦人協会東京支部

〒160 新宿区新宿七十七八戸山マンション

二四二号 Tel 〇三三三三三〇二〇五七二

印刷 タナカ印刷